

2014. 12. 24~27 利尻山・東北稜～北稜

2015. 1. 9

井出康太

24日

20時すぎに札幌を出て、一路稚内へ。日付が変わり2時を過ぎていただろうか？フェリーターミナル前に到着。稚内は思ったより暖かく、朝までしばしの睡眠を車の中でする。

25日

道の駅に車を停めて、朝イチのフェリーで利尻へわたる。船内から利尻山が8割くらい見えていて、期待に胸が膨らむ。バスの時間を調べていなかったため、乗り過ごしたタクシーで石崎林道まで。ドライバーさんは嫌そうだったが、タクシーだったので林道を行けるところまで進んでもらい、10時前に歩き始めた。



370mくらいでアフトロマナイ川の左岸尾根にのる。思っていたよりも雪は多いようで、安定していて快調なペース。一瞬でガスに覆われ小雪が舞いだしてしばらく経った3時すぎ、アフトロマナイ川側の斜面にイグルー雪洞（雪洞の上部に縦穴があり、最上部は小さなイグルーになっている）を掘る。慣れていないので、完成まで2時間くらいかかり暗くなってしまった。それでも、蒸気が抜けるためかなり快適な夜だった。この日はここまでスノーシューのみ、後半はスノーシューが横滑りに弱いため、なんとなく気持ちわるいところもあった。

26日

そとは視界がわるく吹雪だった。ハーネス・アイゼンを着けて、朝7時ころ出発。しばらく進むと、ワンポイント細いアップダウンがあったのでロープを出した。尾根をつめていくと、いつの間にか右手に三本槍が縦にならんでいた。その後も交代しながらつめていくと、ようやく11時半ころ門に到着。尾根を登っていくと門に向かって右側に着いた。一息入れて、濱ちゃんがリードしていくが直ぐに見えなくなる。左手の沢筋に除雪された雪が流れていくが、なかなかロープが出ていかないので、利尻といえどさすがに寒かった。ビレイポイントはハーケン。そこから10mくらい雪壁の壁際をつめると、5mくらいの立った凹角を登る。ブッシュがあるのでスリングをタイオフして、ランナーを何本かとってある。そのあとは、両側（特に南側）が雪庇



になっているキノコ雪を乗り越えるとコルの手前で、スタンディングアックスをした濱ちゃんが待っていた。登攀時間はだいたい1時間半くらいだった。コルをこえた雪壁の先にはすぐにローソク岩があるので、確保されたまま南側の基部を登って上部まで。この時点で14時



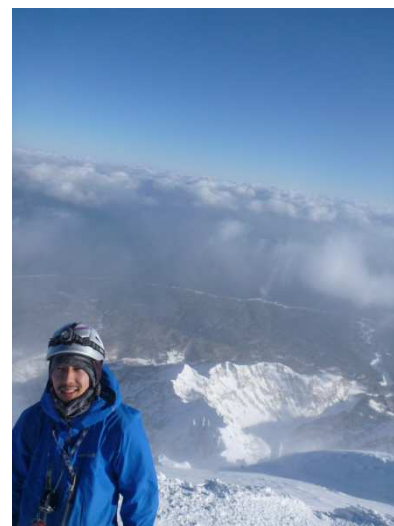
半を回っていたことと、翌日の天気が良い予報なので先に進めることは断念し、明日のために懸垂ポイント探しと支点の掘り出しに費やすことに決めた。周辺を偵察してみると、ローソク岩から先は15mくらい登ったところがポコになっていて、その南側はスッパリと切れ落ち、北側には雪庇がはり出している。ポコから先は鋭利なナイフリッジのアップダウンになっていて恐ろしく、行きたくない。結局ローソク岩の基部から5mくらい先のところに見当をつけて掘ると、適当な枝が出てきたので支点とした。ロープをセッティングして適当に固定し、再びイグルー雪洞を掘る。今度は1時間くらいで完成したが、雪が締まっていなかったためか天井から水が滴り、朝には低くなっていた。

27日

起きて外に出てみると朝焼けがなんとも美しく、素晴らしい感動だった。7時半さっそく懸垂をして、雪壁をノーザイルでつめる。60mロープでちょうど良かったが、50mロープでも、懸垂途中にあるブッシュでピッチを切れれば問題ないと思った。

透き通るような青い空のなかノーザイルで雪壁をつめる。このあたりは尾根が途切れ途切れで複雑な地形なので、視界のあることがありがたい。途中、岩を適当にまいたりしながら登っていくと北峰のすぐ南側に出て、利尻山の頂上に10時前立つことができた。

360度の眺望と、西側の雲海。春に北海道を離れる濱ちゃんには良い思い出ができたかなと思う。記念写真を撮り、ここまで安全に来たことを感謝して祠に手を合わせ、30分くらいいた山頂をあとにした。



下りはあっという間。長官小屋手前でスノーシューに履き替えた。その前後で視界がわるくなったが問題なく、13時すぎには北麓野営場に着いた。そこからターミナルまで1時間くらい。夕方のフェリーも問題なく運航して稚内に戻れた。

あとは、層雲峡・神居岩と転戦して2014年を締めくくった。

パートナーを組んでくれた濱ちゃんありがとう。そして、大変ためになる助言をくれた栗山さんにもこの場を借りてお礼を言わせてもらいたい、ありがとうございました。